



平成22年12月期 第1四半期決算短信(非連結)

平成22年4月28日

上場会社名 株式会社 ゴルフダイジェスト・オンライン
 コード番号 3319 URL <http://www.golfdigest.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長・CEO
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員・CFO
 四半期報告書提出予定日 平成22年5月13日

(氏名) 石坂 信也
 (氏名) 酒井 敦史
 配当支払開始予定日 未定

TEL 03-5408-3188

上場取引所 東

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年12月期第1四半期の業績(平成22年1月1日～平成22年3月31日)

(1) 経営成績(累計)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年12月期第1四半期	2,758	—	7	—	14	—	△10	—
21年12月期第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	—
1株当たり四半期純利益			潜在株式調整後1株当たり四半期純利益					
22年12月期第1四半期			円 銭					
21年12月期第1四半期			△62.16					

(注1) 21年12月期第1四半期につきましては、連結として開示したため、記載しておりません。

(注2) 22期12月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額につきましては、四半期純損失を計上しているため、記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
22年12月期第1四半期	百万円 4,968	百万円 2,668	% 52.1	円 銭 15,748.79
21年12月期	百万円 5,430	百万円 2,748	% 49.3	円 銭 16,284.36

(参考) 自己資本 22年12月期第1四半期 2,590百万円 21年12月期 2,678百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
21年12月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 550.00	円 銭 550.00
22年12月期	—	—	—	—	—
(予想)	—	—	—	—	—

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

平成22年12月期における配当金の金額は未定とさせていただいております。

3. 平成22年12月期の業績予想(平成22年1月1日～平成22年12月31日)

(注)表示は通期(は対前期、第2四半期累計期間)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
第2四半期累計期間 通期	百万円 6,500	% —	百万円 130	% —	百万円 130	% —	百万円 70	% —	円 銭 425.55
14,000	22.8	700	△13.5	710	△13.1	370	21.8	2,249.37	

(注)業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

対前期増減率は、平成21年10月1日に株式会社ゴルフパラダイスを吸収合併した個別業績と比較しております。

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4.その他をご覧下さい。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 無
- ② ①以外の変更 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年12月期第1四半期	164,490株	21年12月期	164,490株
② 期末自己株式数	22年12月期第1四半期	一株	21年12月期	一株
③ 期中平均株式数(四半期累計期間)	22年12月期第1四半期	164,490株	21年12月期第1四半期	163,740株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社において判断したものであります。予想に様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想値と異なる場合がありますので、業績予想に全面的に依拠して投資等の判断を行うことは差し控え下さい。

定性的情報・財務諸表等

1. 経営成績に関する定性的情報

当第1四半期におけるわが国経済は、一部消費財の需要に回復の兆しが見られたものの、デフレの一層の進行や、雇用・所得環境の改善の遅れなどを背景に、個人消費は引き続き低調に推移いたしました。

一方、ゴルフ業界をとりまく環境は、景気悪化の影響を受けているものの、若手プロゴルファーの活躍などによるゴルフブームの高まりを受け、ゴルフプレー人口は増加傾向にあります。また、インターネット業界では一層快適な利用環境の構築が進み、ブログやソーシャルネットワーキングサービスなど新しく台頭したサービスを基盤とし、コミュニティサービスやモバイルコンテンツなどの分野が、今後ますます拡大を続けていくものと予測されます。

このような環境のもと、当社は当期を初年度とする中期経営計画を策定し、今後の成長を加速するため事業基盤の強化と新たなビジネス展開へ挑戦を開始いたしました。平成22年2月の中国企業との旅行事業における業務提携や、3月のゴルフ場基幹システム構築を手がける会社への出資合意はこの取り組みの一環であります。また、引き続き収益力の改善に努めるとともに、業務の効率化とマネージメントの高度化を目指した体制作りに注力しております。

これらの結果、売上高2,758百万円、営業利益は7百万円、経常利益は14百万円となり、第1四半期としては過去最高の売上高となりました。なお、当社は、連結子会社でありました株式会社ゴルフパラダイスについては、平成21年10月1日に吸収合併し、連結子会社がなくなったため、当事業年度より連結財務諸表を作成しておりません。従つて、第12期第1四半期累計（会計）期間については、個別数値を記載しております。

主要セグメント（ビジネス部門）別の主な状況は、以下のとおりであります。

『リテールビジネス』

当第1四半期における当ビジネス部門の業績は、売上高2,045百万円、売上総利益482百万円となりました。

売上高に関しましては、オンラインゴルフショップ「GDOSHOP.com」において、昨年来続くゴルフクラブの販売不振、価格下落の影響と、中古ゴルフ用品販売を行う店舗チェーン「ゴルフパラダイス」の中古クラブ販売の不振により、前年同期を下回る結果となりました。

しかしながら、部門としての売上高は前年同期を下回ったものの、お客様にとって魅力的な商品、サービスの提供を追求した結果、「GDOSHOP.com」へのビズターナー数、注文件数は増加し、新品販売の売上高は、前年同期を上回る結果となりました。

一方、利益面においては、ウェアを中心とする高粗利商品の販売強化、計画仕入による在庫の適正化、経費コントロールの強化を行ったことにより、営業利益が前年を大幅に上回る結果となりました。

不振が続く「ゴルフパラダイス」は、収益性の改善への取り組みとして、「GDOSHOP.com」と連動した品揃えの充実と、不採算店舗の閉店を推し進めております。平成22年3月をもって1店舗（鶴見店）を閉店しましたが、第2四半期以降も積極的に不採算店舗の閉店を行うとともに、より良い立地への新規出店を行っていく予定です。

『ゴルフ場ビジネス』

当第1四半期における当ビジネス部門の業績は、売上高477百万円、売上総利益466百万円となりました。2月、3月の降雪による天候不順の影響を受けつつも、送客人数は前年同期比10.9%増となりました。これは、ゴルフ場への営業強化を図り、ユーザーにとって、より魅力的な優待プランの実施や時間枠の拡大を可能にしたことによるものであります。また、当ビジネス部門では、中期経営計画にも掲げた「ゴルフ場との信頼関係の強化」のため、ゴルフ場への付加価値提供となる取り組みを実施しております。その一環として、「GDOマナーアッププロジェクト」を全国400コース以上で展開しました。ゴルファーのマナー向上を目的としたポスター、ステッカーを制作してゴルフ場に無償配布するなど、好評を得ております。

『メディアビジネス』

当第1四半期における当ビジネス部門の業績は、売上高236百万円、売上総利益158百万円となりました。

広告事業におきましては、経済環境悪化に伴う広告マーケットの低迷の中においても順調に収益を拡大することができました。優良な会員属性を活かした独自性の高い企画内容で広告効果をあげ、その結果として継続掲載や長期掲載のクライアントが拡大しております。平成22年2月にはフリーペーパー「GDO Style Book」2号を発行し、昨年の創刊号を上回る売上を獲得し、高い評価をいただいております。また、3月にはiPhone版GDOマガジン（α版）をスタートさせるなど、より多くのカスタマーにご利用いただける環境を構築しました。宮里藍プロの活躍等による話題性の高まりもあり、ユニークビズターナー数やページビュー数は順調に拡大しております。

モバイル事業におきましては、ゴルフのオフシーズンとも重なり有料会員数の伸びは若干鈍化したものの、売上高は堅調に推移しました。「お客様満足度の向上」という経営テーマ推進の下、カスタマー対応の迅速化、より魅力的なコンテンツの提供など、有料課金サイトとしての付加価値向上により引き続き新規会員の獲得に努めております。

当期より当ビジネス部門の管轄となったイベント事業におきましては、創業10周年を機に「GDOアマチュアゴルフ選手権」を参加者規模で日本最大級の「1万人」へ拡大します。2月より参加者の募集を開始し、順調にエントリー数が伸びております。業績への反映は第2四半期以降となります。

2. 財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債及び純資産の状況

総資産は、主に現金及び預金、売掛金等の流動資産の減少により、前会計年度末に比べ461百万円減少し、4,968百万円となりました。

負債は、主に買掛金をはじめとする流動負債の減少により、前会計年度末に比べ382百万円減少し2,299百万円となりました。

純資産は、主に利益剰余金の減少により、前会計年度末に比べ79百万円減少し2,668百万円となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前会計年度末に比べて450百万円減少し、568百万円となりました。

当第1四半期会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動における資金は286百万円の減少となりました。主な要因は、売上債権の減少による増加207百万円、未払金の減少による支出176百万円、法人税等の支払による支出198百万円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動における資金は152百万円の減少となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出33百万円、無形固定資産の取得による支出119百万円があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動における資金は11百万円の減少となりました。主な要因は、短期借入による収入300百万円、短期借入金の返済による支出170百万円、長期借入金の返済による支出53百万円、リース債務の返済による支出25百万円、配当金の支払62百万円があったことによるものであります。

3. 業績予想に関する定性的情報

平成22年2月、当社は中期経営計画を発表し、10年後には世界NO.1の「ゴルフ総合サービス企業」を目指すことを長期ゴールとして設定しました。今後は、「グローバル」と「イノベーション」という2つのキーワードのもと、事業基盤の強化と新たな事業展開への挑戦を行ってまいります。

当第1四半期の国内経済は、一部消費財の需要が回復するなど景気底打ちの兆しが見えてきたものの、当社をとりまく経済環境は、依然として予断を許さない状況にあります。当社は、業務の効率化とマネジメントの高度化を目指した体制作りに注力するとともに、引き続き収益の改善を進めており、平成22年2月10日に発表した通期業績予想（売上高14,000百万円、営業利益700百万円、経常利益710百万円、当期純利益370百万円）は変更しておりません。

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①簡便な会計処理

・一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第1四半期会計期間末の貸倒実績率等が、前会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

②四半期財務諸表の作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

当第1四半期会計期間末
(平成22年3月31日)

資産の部

流動資産

現金及び預金	568,110
売掛金	905,851
商品及び製品	1,244,968
原材料及び貯蔵品	7,230
その他	307,461
貸倒引当金	△436
流動資産合計	3,033,186

固定資産

有形固定資産	377,989
無形固定資産	992,184
投資その他の資産	564,788
固定資産合計	1,934,962

資産合計

負債の部

流動負債

買掛金	866,395
短期借入金	313,344
未払法人税等	5,202
ポイント引当金	212,979
その他	470,049
流動負債合計	1,867,970

固定負債

負債合計	431,292
	2,299,262

純資産の部

株主資本

資本金	824,916
資本剰余金	786,035
利益剰余金	963,000
株主資本合計	2,573,951

評価・換算差額等

その他有価証券評価差額金	16,566
評価・換算差額等合計	16,566

新株予約権

純資産合計	78,369
	2,668,887

負債純資産合計

負債純資産合計	4,968,149
---------	-----------

(2) 四半期損益計算書
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

当第1四半期累計期間 (自 平成22年1月1日 至 平成22年3月31日)	
売上高	2,758,560
売上原価	1,651,018
売上総利益	1,107,542
販売費及び一般管理費	1,099,609
営業利益	7,932
営業外収益	
受取利息	1,003
不動産賃貸料	2,967
受取損害金	3,500
その他	3,634
営業外収益合計	11,106
営業外費用	
支払利息	4,886
その他	67
営業外費用合計	4,953
経常利益	14,085
特別損失	
固定資産除却損	3,770
その他	44
特別損失合計	3,814
税引前四半期純利益	10,270
法人税、住民税及び事業税	2,564
法人税等調整額	17,931
法人税等合計	20,495
四半期純損失(△)	△10,225

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

当第1四半期累計期間
(自 平成22年1月1日
至 平成22年3月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー

税引前四半期純利益	10,270
減価償却費	54,401
有形固定資産除却損	3,770
受取利息及び受取配当金	△1,003
支払利息	4,886
のれん償却額	23,422
受取損害金	△3,500
ポイント引当金の増減額(△は減少)	2,606
貸倒引当金の増減額(△は減少)	607
売上債権の増減額(△は増加)	207,089
たな卸資産の増減額(△は増加)	△130,685
未収入金の増減額(△は増加)	12,508
前払費用の増減額(△は増加)	△11,167
仕入債務の増減額(△は減少)	△36,568
未払金の増減額(△は減少)	△176,997
未払費用の増減額(△は減少)	△23,672
未払消費税等の増減額(△は減少)	△14,862
その他	△7,164
小計	△86,059
利息及び配当金の受取額	260
利息の支払額	△5,552
損害金の受取額	3,500
法人税等の支払額	△198,935
法人税等の還付額	306
営業活動によるキャッシュ・フロー	△286,480
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△33,592
無形固定資産の取得による支出	△119,230
その他	188
投資活動によるキャッシュ・フロー	△152,634
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	300,000
短期借入金の返済による支出	△170,000
長期借入金の返済による支出	△53,332
リース債務の返済による支出	△25,342
配当金の支払額	△62,454
財務活動によるキャッシュ・フロー	△11,128
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△450,243
現金及び現金同等物の期首残高	1,018,354
現金及び現金同等物の四半期末残高	568,110

(4) 繼続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

「参考情報」

(1) 連結貸借対照表

		(単位:千円)
		前連結会計年度
		(平成21年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金		1,018,354
売掛金		1,113,684
商品及び製品		1,114,730
原材料及び貯蔵品		6,782
繰延税金資産		163,220
その他		159,570
貸倒引当金		△572
流動資産合計		3,575,770
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物		316,137
工具、器具及び備品		76,734
リース資産		137,835
建設仮勘定		21,461
減価償却累計額		△191,940
有形固定資産合計		360,228
無形固定資産		
のれん		249,841
リース資産		349,335
その他		339,461
無形固定資産合計		938,638
投資その他の資産		
投資有価証券		55,193
敷金		260,998
繰延税金資産		33,714
その他		205,628
貸倒引当金		△68
投資その他の資産合計		555,465
固定資産合計		1,854,333
資産合計		5,430,103
負債の部		
流動負債		
買掛金		902,964
短期借入金		170,000
1年内返済予定の長期借入金		66,676
リース債務		102,783
未払金		299,085
未払法人税等		214,258
ポイント引当金		210,372
その他		249,587
流動負債合計		2,215,728
固定負債		
リース債務		398,296
その他		67,270
固定負債合計		465,566
負債合計		2,681,295

(単位:千円)	
前連結会計年度	
(平成21年12月31日)	
純資産の部	
株主資本	
資本金	824, 916
資本剰余金	786, 035
利益剰余金	1, 063, 695
株主資本合計	<u>2, 674, 646</u>
評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	3, 968
評価・換算差額等合計	<u>3, 968</u>
新株予約権	70, 192
純資産合計	<u>2, 748, 808</u>
負債純資産合計	<u>5, 430, 103</u>

(2) 四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

前第1四半期連結累計期間	
(自 平成21年1月1日 至 平成21年3月31日)	
売上高	2,723,206
売上原価	1,743,366
売上総利益	979,839
販売費及び一般管理費	984,624
営業損失(△)	△4,785
営業外収益	
受取利息	2,189
不動産賃貸料	3,061
その他	1,058
営業外収益合計	6,309
営業外費用	
支払利息	3,638
その他	7
営業外費用合計	3,645
経常損失(△)	△2,121
特別損失	
投資有価証券評価損	454
固定資産除却損	437
その他	12
特別損失合計	904
税金等調整前四半期純損失(△)	△3,025
法人税、住民税及び事業税	2,308
法人税等調整額	13,684
法人税等合計	15,992
四半期純損失(△)	△19,018

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

前第1四半期連結累計期間

(自 平成21年1月1日)

至 平成21年3月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前四半期純損失 (△)	△3,025
減価償却費	28,437
無形固定資産除却損	437
受取利息及び受取配当金	△2,189
支払利息	3,638
株式交付費	7
投資有価証券評価損益 (△は益)	454
のれん償却額	23,422
株式報酬費用	10,953
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	10,936
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△45
売上債権の増減額 (△は増加)	223,046
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△1,284
未収入金の増減額 (△は増加)	2,548
未収消費税等の増減額 (△は増加)	22,907
前払費用の増減額 (△は増加)	3,025
仕入債務の増減額 (△は減少)	△124,289
未払金の増減額 (△は減少)	△26,457
未払費用の増減額 (△は減少)	△70,343
未払消費税等の増減額 (△は減少)	3,418
前受金の増減額 (△は減少)	8,275
預り金の増減額 (△は減少)	7,730
その他の資産の増減額 (△は増加)	△2,658
その他の負債の増減額 (△は減少)	△12,687
小計	106,258
利息及び配当金の受取額	776
利息の支払額	△3,833
法人税等の支払額	△93,130
法人税等の還付額	18
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,089

(単位：千円)

前第1四半期連結累計期間

(自 平成21年1月1日)

至 平成21年3月31日)

投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出	△29,903
無形固定資産の取得による支出	△56,018
その他	418
投資活動によるキャッシュ・フロー	△85,504

財務活動によるキャッシュ・フロー

短期借入れによる収入	1,600,000
短期借入金の返済による支出	△1,000,000
長期借入金の返済による支出	△53,332
配当金の支払額	△57,309
その他	△7
財務活動によるキャッシュ・フロー	489,351
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	413,936
現金及び現金同等物の期首残高	1,150,285
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,564,222